

3. 本編関連資料

第1章-2 関連

第1次ビジョンの取組状況

本編 P4~P5

1 将来の水需要と府営水道の適正規模

① 水需要の予測

- 人口減少による水需要の減少が見込まれる中、京都府営水道事業経営審議会にて「水需要専門部会」を設置し、専門的な意見をいただきながら、統計的な推計方法（モンテカルロシミュレーション）を導入し令和元年度に事業運営の基礎となる水需要予測をとりまとめました。

水需要予測フロー



② 府営水道施設の適正規模

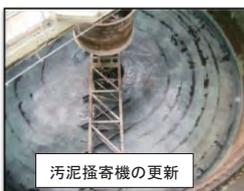
- 現有施設能力（166,000m³/日）を維持し、更新工事や大規模・長期の支障に備え、府営水道全体で維持管理用の予備として1系列を確保した上で、府営水の一最大給水量の供給を行っています。
- 長期的な水需要予測に応じた府営水道と受水市町の適正な施設規模と配置の案を複数案作成し、受水市町との検討に着手しました。

2 安心・安全な給水体制の確保【リスク別対策】

① 施設の老朽化対策・耐震化（浄水場・ポンプ場）

- 「更新基準年数」を設定し、10年間（令和6年度まで）の建設改良計画を策定し、それに伴った収支計画（京都府営水道経営レポート）を策定することにより、計画的に更新等を実施しています。
- 令和4年度で宇治浄水場が給水開始以降57年を、木津浄水場が44年を経過しており、重点的に更新等を行っています。

宇治浄水場



木津浄水場



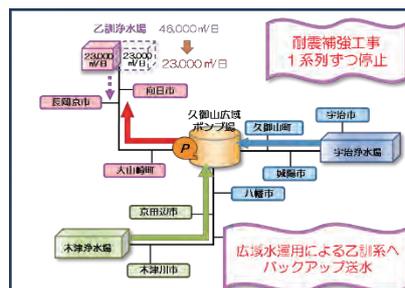
乙訓浄水場



- 乙訓浄水場の耐震補強が平成28年度に完成し、3浄水場全ての取水から浄水場出口までの耐震化が完了し、安定した浄水処理を確保しています。



- 耐震補強や設備更新に当たっては、府営水道全体で確保している予備力1系列を広域水運用により有効活用し、受水市町への供給に影響を及ぼさないよう進めています。



① 施設の老朽化対策・耐震化（管路）

- 管路の耐震化は、耐震継手管への布設替えとなるため、老朽化更新とも整合を図りながら計画的に進めています。
- 設置年度が古く老朽化が進む宇治系送水管路の幹線・城陽線の更新を平成26年度から最優先で取り組んでおり、城陽線区間(2.6km)を完成させ平成29年度に供用開始し、宇治市街地区間(3.6km)を完成させ部分供用開始(2.2km)するなど集中的に実施しています。
- 実施にあたっては、埋設環境・道路状況及び技術開発等の状況の変化に対応しながら進めており、小口径シールド工法の採用などによりコスト削減も併せて行っています。



- 宇治系送水管路の更新に引き続き、液状化の可能性が高い上、耐震性が比較的安く経年管となっている木津系管路の更新・耐震化計画策定に着手しています。